



突撃!

Vol.54 2013.11

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.52 札幌南一条病院 看護部 副部長 専従医療安全管理者 居上優香 様



【病院外観】



【居上様自画像】

■病院概要

呼吸・循環器疾患の医療に特化した専門病院。腎臓病に幅広い透析療法を行っているほか、呼吸器疾患には、在宅酸素療法や夜間無呼吸症候群の検査・治療に積極的に取り組んでいる。高齢者や合併症、長期管理が必要な患者には療養病棟も完備。「患者にとって最も良い医療を提供すること」をモットーに、呼吸・循環器の高度なトータルケアの確立を目指している。

病床数：147 床（一般 147 床）

医療機能評価機構認定病院（ver6.0）

■理念・基本方針

基本理念

患者さんにとって最も良い医療を提供する。

- 1.安全と安心の確保
- 2.適切な医療サービス
- 3.知識、技術の向上
- 4.医療環境の整備
- 5.健全で活力のある病院

基本方針

- 1.病院の専門性と独自性
- 2.診療の質の確保と効率化
- 3.医療連携と広報活動
- 4.院内体制の新構築

1. 組織体制について

—医療安全のための組織体制についてお聞かせ下さい。

当院の医療安全を推進する組織としては、まず副院長を長とする安全管理委員会があり、その下に看護部セーフティマネジメント委員会があります。メンバーは各部署から選ばれた看護師で構成し、オブザーバーを私が務めています。

また、看護部以外の医師、診療技術部門、薬剤師などで構成する医療安全検討委員会があります。

看護部セーフティマネジメント委員会や医療安全検討委員会が出た意見は、安全管理委員会の承認を得て、院内に通達、実施されるという仕組みです。

—居上様の主な業務内容をお聞かせください。

私は、看護部の副部長かつ専従医療安全管理者として業務に従事しています。

業務の効率化や医療安全の向上を含めて担当していますが、当院では既に医療安全の土台がある程度できているので、現状では後継者の育成が最も大きな使命だと感じています。

2. 転倒・転落事例の収集と対策について

—転倒・転落事例の収集方法をお聞かせ下さい。

当院では、事例の報告および分析を「ファイルメーカーR」というデータベースソフトを使用して作成し、運用しています。

データベースには、総合的な報告システムの他、転倒、皮膚剥離など重点事業を行っているものについては個別の報告様式があります。転倒の報告様式は、事例の内容だけではなく患者さんの背景を含めた項目があり、報告時間を短縮するために選択式の項目を多くしています。

また、収集した事例情報は、医療機能評価機構の医療事故情報等収集事業に報告しています。

—近年の転倒・転落事例の発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

報告書ベースの件数は増加傾向にありますが、実際に受傷があった事例は、年間数件程度の発生状況です。報告書が増えている理由としては、スタッフに「リスク感性」と「報告文化」が根付いて、ささいな気付きでも報告して共有しようとする意識が働いた結果だとプラスに考えています。

3. 医療安全に関する研修および人的対策について

—医療安全に関連して、過去どのような研修を実施されましたか？

定期的な研修としては、「SBAR※」、「KYT」をテーマに新人看護師、中堅看護師に別れて実施しています。

また、私たちの業務に関連する機器や薬剤などの研修も、必要に応じてメーカーを招いて実施しています。

コンパクトで小回りが利く組織なので、研修も随時実施出来るのは当院の強みだと思います。

※SBAR

アメリカ・ワシントン DC のプロビデンス病院の看護師の教育方法で「分かりやすく相手に伝える事」を目的とした手法。医療安全対策として多職種が長年の研究結果をもとに作成した『TeamSTEPPS』というプログラムの中の一つを切り取ったもので、「分かりやすく相手に伝えること」は当然「医療安全」にも関与していることであり、患者の安全・安楽を提供する看護師にとっては、欠かせないスキルと言える。

—事故防止のための人的対策（専門チームで活動、ラウンドの工夫など）はされていますか？

看護部セーフティマネジメント委員会のメンバーが5つのチームに別れて院内ラウンドを実施しています。

5つのチームは、内服・注射、輸血、転倒防止、身体拘束、療養環境で、月に1回の頻度でメンバーに私が同行し、転倒防止であれば患者さんのリスクに応じた事故防止策が正しく実施されているかどうかをチェックしています。

—他の病院様と、医療安全に関する連携はされていますか？されている場合、目的、内容をお聞かせ下さい。
札幌市内の中小近隣病院と「地域で繋ぐ安全の輪プロジェクト」として安全ネットワークを作って、様々な活動を行っています。

私は現在「公益社団法人 北海道看護協会 札幌第一支部」の副支部長をしていますが、看護協会が公益法人になった際に、医療安全の事業を是非行いたい！と役員間で声が上がり、取り組みを始めました。「医療安全で地域に貢献しよう！」と呼び掛けた所、支部内の病院の有志の方々に集まっていただき、今年5月に発足しました。

これまでの活動内容としては、2回講師を招いて医療安全に関する交流会を実施したり、参加者からアンケートを取って、医療安全に関する情報収集を行いました。

アンケート結果では、中小の病院では他の病院と連携がなかったり、情報の入手が困難だったりとの連携が必要であると考えられている所が多い事が分かりました。

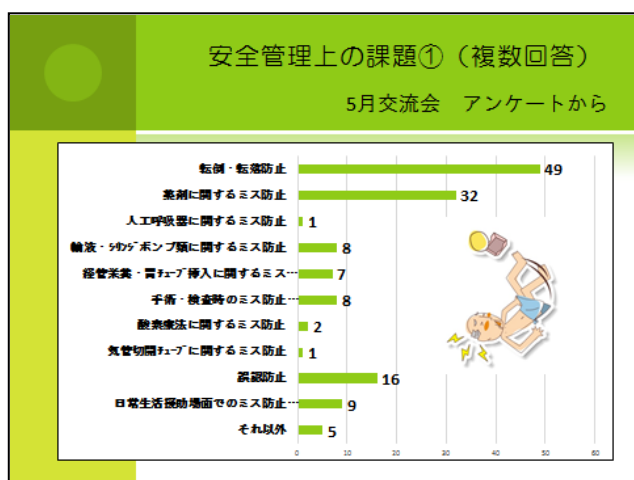
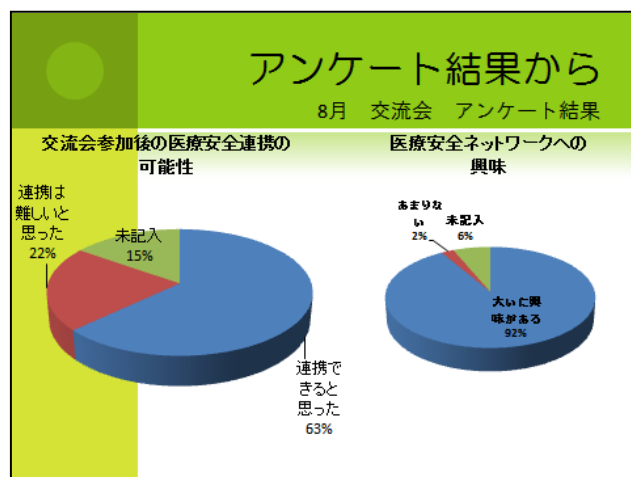
今後も、自施設だけではなく地域全体の医療安全を考える場として、地域に貢献出来ればと思います。

【地域で繋ぐ安全の輪プロジェクト 交流会の資料・アンケート結果】

ネットワーク作りきっかけ

公益法人になったんだから医療安全で地域に貢献しよう！

- 事業計画の項目にある「医療安全」事業を発見・・・
⇒今まで取り組んでなかったけど・・・やらなきゃいけないこと？
- 医療安全のネットワークを作りたい！という役員からの意見
- 医療安全全国共同行動の活動に興味があるが、所属施設が加入していない。どこかやってる？
- せっかく、同じ地域にあるんだからもっと連携できない？

活動の可能性②

- ◎ 自施設の安全だけではなく、地域全体の医療安全を考える。⇒未加入施設も含めて
- ◎ 医療事故防止だけでなく、「防ぎ得た死」を少しでも減らす！
⇒合併症予防や異常の早期発見等に関する取り組み

4. 離床センサーについて

—離床センサー導入に際して、どのようなポイントで機種を選定されましたか？

当院では、テクノスジャパンのコールマット（床敷きタイプ）、ベッドコール（背中敷きタイプ）、トイレコール（トイレ用）、座コール（車いす用）の4種類のセンサーを合計9台導入しています。

コードレスなので設置が簡単で安全性、利便性が高く、患者さんの拘束感が少ない事から選びました。

他にクリップタイプの離床センサーもありますが、今後はコードレスタイプを中心に増やしたいと思います。

—トイレコールはどのような対象者に使用され、どのような効果がありましたか？

以前は、トイレでの転倒事故が非常に多かったんです。

患者さんに付き添ってトイレまで行っても、待っている間に別のナースコールが鳴り、対応している間に転倒することがあったので、何か対策がないかと探した所、テクノスジャパンのトイレコールに行きついて導入しました。

対象者は、常時トイレの中の見守りの必要がないけれども、ナースコールを押さずにトイレ後に自分で立ち上がってしまう方を選んで使用しています。

トイレコール導入後、導入部署でのトイレでの転倒事故はゼロになりました！

—トイレコールはどのように運用されていますか？

トイレコールはトイレからの立ち上がりをトイレセンサーが感知し、ポケット受信器で知らせる仕組みですが、当院では、ポケット受信器をトイレの中に置き、使用時のみ受信機の電源を入れ携帯しています。転倒リスクの無い方も同じトイレを使用しているので、トイレセンサーの電源は常時入れ、受信機のオン・オフで必要時のみトイレコールが鳴るという運用です。トイレコールを導入したことで、患者さんのプライバシーも配慮しつつ安全対策も行うことができるようになりました。

【ポケット受信器】



【トイレセンサー】



5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

製品面では、現場のニーズに沿った製品開発や製品の改良をお願いしたいと思います。

また、サービス面では他の病院の対策や離床センサーの活用方法についてぜひ情報が欲しいです。

6. 最後に、一言お願いいたします！

“医療安全管理者は孤独である”とよく言われますし、過去の私もそういった面がありました。

しかし、医療安全は1人の力で達成できるものではなく、職員全員の力を結集して達成すべきものだと思います。

今後も、院内で、地域で、みんなの力を結集して様々な事に取り組んでいきたいと思っています！